

三笠宮崇仁親王殿下を お偲び申し上げて

堀江 正夫 陸士50

殿下が陸士第48期生として市ヶ谷台上に御在学当時、私は延期して50期で、本科と予科と違っていたが、1年間で同じ台上で過ごし、この間端正な殿下のお姿を、再々拝していた。

当時殿下は、学校本部前広場の、右前方の一本松傍の木造の皇族舎にお住まいであった。

大変御総明で成績も秀れ、われわれ凡人が試験前暗記するのに、色々と線を引きいたり、小さな声でつぶやいたりして、苦闘するのに対し、殿下は常に机上の教程に向かつて、静かに背筋を伸ばして座られ、黙々と目読されるだけで立派な成績をとられ、「流石は殿下だな」と同期生が話していたのを、今もはっきり記憶に残っている。

また、殿下の予科、本科を通じての御学友として、教室で殿下と机を並べ、4年間の在学中殿下に付添い、更に同じ騎兵となり、聯隊も陸大も御一緒だった向井正武さんは、私の幼年学校時代の1年上で、しかも東部ニューギニアの参謀で戦死され、私はその後任であった。

戦後殿下は瀬島龍三先輩が提唱設立された、大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会の名誉総裁を御引き受けになり、その慰霊祭に御出まし頂いた時、副会長として接待役を仰せつかった私は、向井さんの戦死の状況や、戦後の遺骨収集時向井さんの埋葬の場所を見出し、その御遺骨を奥さんにお届けしたことをお話し申し上げたところ、殿下は御真情を吐露してその死を悼まれ、向井さんの思い出を色々と御聴かせ頂き、更に騎兵科のわが同期生との思い出も拝聴させて頂いた、あの時の御姿は、今でもはっきり臉に残っている。

改めて、謹んで殿下の御生前をお偲び申しあげ、心から御薨去をお悼み申しあげると共に、皇室の弥栄をお祈り申しあげて、この小文を終わらせて頂く。